

1テーブルから行の検索(1)(2)

テーブルから行の検索(1)

「従業員」というテーブルからの検索例である。この「従業員」テーブルは、「従業員番号」「部門番号」「氏名」「住所」「年齢」という5つの項目から出来ている。

例 1: select

```
select *  
from 従業員
```

従業員番号	部門番号	氏名	住所	年齢
1	1	飯塚正俊	つくば市	48
2	2	市田幹雄	土浦市	31
3	3	岩崎長司	明野町	23
4	3	大塚吉夫	下館市	34
5	4	岡田孝	水海道市	22
6	5	鬼塚裕	下妻市	42
7	5	片岡道子	つくば市	30
8	7	菊地弘	土浦市	39
9	8	小菅清元	明野町	28
10	6	霜田正	明野町	34
11	8	鈴木國臣	水海道市	20
12	4	山田一郎	下妻市	50
13	8	武市純三	つくば市	18
14	4	玉木浩美	土浦市	54
15	9	角田光弘	つくば市	19
16	7	中川公成	土浦市	46
17	10	中村勝	取手市	31

従業員番号	部門番号	氏名	住所	年齢
18	2	長谷義彦	つくば市	20
19	2	福間要	土浦市	17
20	3	前田清子	土浦市	23
21	4	松本秀久	守谷町	27
22	6	湯沢太一郎	取手市	40
23	6	吉村浩	つくば市	17
24	7	伊藤慶久	土浦市	18
25	10	川口つや子	明野町	45
26	1	武井豊秋	守谷町	36
27	1	真鍋利定	つくば市	18
28	2	岩崎裕	つくば市	46
29	9	木村三郎	土浦市	26
30	9	鷲山昭彦	明野町	36

この例では、項目名のリストが省略され、* が指定されている。この指定の意味は、出力結果を見れば明らかであろう。すなわち、例 4のように、テーブルの全項目が、元のテーブルの項目順に指定されたのと同じ結果が得られている。

ただし、この書式の濫用は控えた方がよい。なぜならこれはテーブルのすべてのカラムを対象にしまうので、カラム数が多いと当然負荷が高まり性能が低下するためである。

この場合次例のように、全項目指定を行うのが望ましい。

例 2: 全項目の指定

```
select 従業員番号, 部門番号, 氏名, 住所, 年齢
from 従業員
```